

執筆者紹介(執筆順。*印は編者)

*小林 武(こばやし たけし)

1941年生

沖繩大学客員教授

主要著書 『現代スイス憲法』(法律文化社, 1989年), 『憲法——演習講義』(法学書院, 1995年), 『ようこそ日本国憲法へ』(法学書院, 1998年〔第2版:2009年〕), 『自治体憲法〔自治体法学全集2〕』(山下健次教授と共著, 学陽書房, 1991年), ハンス・チュニ『現代民主政の統治者——スイス政治制度とロビイストたち』(翻訳, 信山社, 1999年), 『地方自治の憲法学』(見洋書房, 2001年), 『人権保障の憲法論』(見洋書房, 2002年), 『憲法判例論』(三省堂, 2002年), 『法曹への憲法ゼミナール——同時代を解く』(法学書院, 2003年), 『憲法と国際人権を学ぶ』(見洋書房, 2003年), 『平和的生存権の弁証』(日本評論社, 2006年), 『憲法と地方自治〔現代憲法大系13〕』(渡名喜庸安教授と共著, 法律文化社, 2007年)。

*三並 敏克(みなみ としかつ)

1943年生

京都学園大学法学部教授

主要著書 『企業社会と人権』(小林武教授と共編, 法律文化社, 2001年), 『21世紀日本憲法学の課題』(小林武教授と共編, 法律文化社, 2002年), 『ベーシック憲法入門〔第2版〕』(山下健次・畑中和夫編, 第4講(思想・良心, 信教の自由), 第5講(表現の自由と「知る権利」)を執筆担当, 法律文化社, 2002年), 『私人間における人権保障の理論』(法律文化社, 2005年), 『「民営化された行政」への憲法の適用』(小林武ほか編『「民」による行政——新たな公共性の再構築』(法律文化社, 2005年)所収), 『人権の私人間効力論と国家の基本権保護義務論』『政策科学』13巻3号(通巻33号, 2006年), 『個人情報保護法の性格——憲法上の人権と私法上の権利の観点からの考察』(『転換期の法と文化』(法律文化社, 2008年)所収), 『監視社会と人権』(京都学園大学総合研究所所報)第11号(2001年)。

近藤 真(こんどう まこと)

1953年生

岐阜大学地域科学部教授

主要論文 『社会権力に対する個人の意見表明の自由——ワイマール憲法第118条第1項第2段の成立と展開(1)(2)完』『法政論集』99, 100号, 1984年, 『西ドイツ国法における社会的権力論——ライヒェンパウムの社会的権力論紹介』『法政論集』149号, 1993年, 『ニュージーランドの環境法と環境運動』(岐阜大学地域科学部研究報告)第2号, 1998年。

武居 一正(たけすえ かずまさ)

1953年生

福岡大学法学部教授

主要著書論文 『法学部新入生のための学ナビ』(法律文化社, 2006年), 『ガイドブック憲法』(辰村吉康教授と共編著, 雄略野書院, 2007年), 『ベルギーにおける言語的

少数者保護』『法学論叢』(福岡大学)47巻1号, 2002年, 『BHV選挙区分割の憲法の問題点——ベルギーにおける言語的少数者保護の側面』『政策科学』(山下健次教授追悼論文集13巻3号, 2006年, 『ベルギー首相辞任の影響——今何が起きているのか?』『法学論叢』(福岡大学)53巻4号, 2009年)。

石崎 学(いしざき まなぶ)

1968年生

龍谷大学法科大学院教授

主要著書 『リアル憲法学』(共編, 法律文化社, 2009年), 『人権の変遷』(日本評論社, 2007年), 『アモクラシー検定——民主主義ってなんだっけ?』(大月書店, 2006年), 『生活安全条例とは何か——監視社会の先にあるもの』(『生活安全条例』研究会編, 現代人文社, 2005年)。

上出 浩(うえて ひろし)

1968年生

立命館大学講師

主要論文 『ユビキタス社会における「民主主義システム」——新たなマス・メディアの位置づけに向けて』『立命館法学』291号, 2003年, 『合衆国連邦最高裁判例に見る20世紀中葉の「プレス」の自由』『ユビキタス時代における「プレス」の役割を求めて』『立命館法学』312号, 2007年, 『自己喪失へのプロローグ——技術革新がもたらす「内なる心」の揺らぎを手がかりに』『立命館法学』321-322号, 2008年。

倉田 玲(くらた あきら)

1971年生

立命館大学法学部准教授

主要論文 『グリマンダリングと合衆国の投票権法制——代表を選出する機会の平等(以下)』『立命館法学』268-269号, 1999~2000年, 『大統領選挙と平等保護——ブッシュ対ゴア事件判決の再検討』『立命館法学』277号, 2001年, 『禁錮以上の刑に処せられた者の選挙権』『立命館法学』300号, 2005年, 『グローバル化と人権』(中茂樹・中谷義和編『グローバル化と国家の変容:グローバル化の現代——現状と課題』第1巻(御茶の水書房, 2009年)所収)。

中井 勝巳(なかい かつみ)

1951年生

福島大学行政政策学類教授

主要著書 『グローバル化と地域——21世紀・福島からの発信』(福島大学地域研究センター編, 第13章執筆, 八潮社, 2000年), 『大系 環境・公害判例 第8巻 都市計画』(判例大系刊行委員会編著, 旬報社, 2001年), 『新・環境法入門』(吉村良一・水野武夫・藤原猛爾編, 第I部第3章・第7章・第9章執筆担当, 法律文化社, 2007年), 『レクチャー環境法〔第2版〕』(富井利安編, 第3章執筆担当, 法律文化社, 2010年)。

鳥居 喜代和(とりい きよかず)

1951年生

元札幌学院大学法学部教授

主要著書論文 『憲法的価値の創造——生存権論を中心として』(日本評論社, 2009年), 『北海道と憲法——地域から地球へ』(太田一男教授との共編, 法律文化社, 2000年), 『法人の基本権能力に関する覚書——団体の憲法上の人権享有主体性研究序説』『札幌学院法学』11巻1号, 1994年, 『財産権二分論の到達点と課題』(山下健次編『都市の環境管理と財産権』(法律文化社, 1993年)所収), 『生存権裁判における訴訟の承継について——本村訴訟第1審札幌地裁平成1年5月31日判決を契機に』『札幌学院法学』6巻2号, 1990年。